1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770400760		
法人名	株式会社 愛心会		
事業所名	愛心会 ほっとファミリーぞうの目		
所在地	いわき市佐糠町東1丁目		
自己評価作成日	R5/8/22	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク
所在地	〒974-8232 福島県いわき市錦町大島2番地
訪問調査日	令和7年12月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日常の談話の中から利用者様の希望、要望を取り入れ散歩に出かけ、またドライブや小旅行などイベントも計画しています。日課にとらわれずご本人様の生活のリズムを尊重して、ご本人様とご家族様が安心して生活ができるように最大限努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

本人及び家族等の希望を大切にし納得が得られ、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら適切な医療を受けられるよう支援し、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、理念をもとに管理者と職員は実践している。
運営推進会議では、利用者やサービスの実際評価への取り組み状況などについて報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に生かしている。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)　※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果　〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を掲げ、常に理念には触れている。またいつでも確認できるように事務所に掲示して、日々理念を具体化できるように意識してサービスの提供に努めています。	理念をもとに、そのひとが望むその人らしい生活の満足を追求し、喜びと感動のサービスを提供し、より良いサービスができるようにしたいと考えている。利用者と何気ない生活行動でも笑顔で感謝を述べていただけることが実践していると感じている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として近所づきあいや地元の活動、地域住民との交流に積極的に取り組んでいる。	近所のスーパーや病院、公共施設などに出かけたり、民生員とのつながりを大切にしています。	事業所近辺の方とは挨拶を行ない、行事で地域の祭りに参加するなど交流している。地域の方との交流については他の事業所とも協力して行事に参加し、交流している。地域の一員として清掃活動などを通して貢献し役割を担えるようにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日常的に散歩や施設のポーチに出て近所の方と挨拶を交わしたりと触れ合う機会を作っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている。	2カ月に1度の定期的に包括センターへ事業報告を行い、サービスの質の向上について事業所で検討しています。	家族から親族の行事に参加したいとの要望があり当日に至るまでの準備、感染症への予防を話し合い、利用者を尊重した生活支援が行われている。いただいた意見について課題を明白にし、個別に把握し希望を叶えられるように取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	その都度、利用者様の受け入れの相談や居室の空き状況などの情報交換をしています。	運営や介護保険について相談したり、介護職員としての接遇や権利擁護について指導してもらっている。認知症への理解を含め、運営についての情報や指導を望んでいる。連携することで、事業所の問題解決に繋がると考えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関を開放してセンサーにて外に出ようとする利用者様を把握して行動を抑制しないケアを取り組んでいます。また、虐待防止委員会の設置により研修、検討を行い身体拘束防止に努めています。	基本的に身体拘束はしないことを掲げ、虐待防止委員会を通して身体拘束に繋がらない対応について課題があれば、話し合い尊厳を守るようにしている。言葉の拘束については気づいた時にその都度職員に声かけをし指導している。	
7	福-1	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止委員会を設置し虐待防止について議論を行い予防に努めています。また。勉強会やアンケートを行い虐待防止について機会を設けています。	虐待防止関連法については研修を通して学び、事業所で話し合う場を設けケアに取り組んでいる。定期的に研修や振り返りを行ない理解することに努めている。不適切なケアについて月に一度話し合いの場を設け確認しあっている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会に参加し共有の為、職員会議などで共有する機会を設けています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	1つ1つ説明し理解・納得を得られるように努め、疑問が出てきても再度、説明ができるようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様とは会話する機会を持ち意見・不満・苦情を引き出せるように努力しています。ご家族様とは来所頂けた機会の時など意見・不満・苦情など引き出せるようにしています。	事業所へ来られた時や電話連絡の際には、相談事が無いか話しやすい雰囲気作りに心がけている。お悔やみ参加の相談で感染対策等の確認を行ない参加できるようにしている。家族からの意見については貴重な意見とし、質の向上を目指す上で大切にしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や管理についての職員の声に耳を傾け、活かしていくことを心がけ、職員の働く意欲の向上や質の確保を図っている。	常時、職員の意見や要望を聞けるようにしていると共に、意見が言いやすい環境づくりに努めています。	働き方の相談があり、組織全体で働きやすい環境などの意見をもらい勤務形態変更を行い、負担と人員の改善をできるよう取り組み、職員から負担が減ったといわれている。研修を行ない知識を増やして行くことを勧め、職員の向上心を高めるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1度のストレスチェックと年2，3回の職員個人と面談を行い、疲労やストレスの要因について気を配り、職員同士の人間関係を把握し、居心地の良い職場にするため業務改善に努めています。		
13	福-2	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内・外の研修や勉強会に参加するようにし、その後のフォローにもフォローを努めています。	目標を明確にし、自分たちで実行できるよう設定し、毎月の振り返りと研修会の開催を行っている。それぞれの職員に役割を振り、お互い認め合えるような人材育成を行なっている。利用者が喜び職員が笑顔でケアに努めいるときに研修が活かされていると考えている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入しグループホームでの悩みやケアに困っている事を意見交換しサービスの向上に努めています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の言葉や態度、仕草からその思いを読み取る努力をし、利用者様本意の関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様からの話し合いの中から、これまでの思いや必要としている事を理解し、共有できる努力をしながらより良い関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご自身の思いや意見を上手く表現できない利用者様であっても好きな事嫌いな事などの言動からご本人様の意向を汲み取る様にしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的なケアではなく利用者様と一緒に行動するように努め、ともに暮らし学び合える関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様との連絡を密にとり、コミュニケーションを大切にして、協力を得ながら一緒にご利用者様を支えていけるように努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や外出に感染対策を最大限に配慮し大切なつながりを途切れない様に努めています。	利用者が喜ぶ地域に出かけスーパーの買い物を行ったり、思い出の場所を見に行ったりしている。電話での会話、手紙での交流もできるようにしている。面会については、感染対策を取り、直接話せる環境を提供し、家族や親戚の方友人との面会は継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様によっては他者と関わりたくない方もいるので環境を整え職員が個別に対応できるようにしています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用期間のみの関わりでなく、終了後もいつでも相談に応じる対応をとっています。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、関係者で本人の視点に立って意見を出し合い、話し合っていく取組を心がけている。	申し送りや職員会議に随時話し合いを設けてご利用者様の希望や意向を把握するように努めています。	把握した思いや意向を記録に残し、イベント等で企画し思い出の場所に行くなどしている。家族との普段の生活風景で出かけた場所や楽しかった思い出を多く話してくれいる。困難な方は家族の方との会話で聞き取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴・経過等の情報については記録に記し把握できるようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの日々の様子をケースに記録し、早急に変化に気付けるように傾聴と観察を心がけ状態の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様、ご家族様の意見を聞き介護職員全体で話し合いニーズの把握を努めたうえで介護計画を作成しています。	個別に生活活動を見極め、職員と一緒に計画を立てている。医療機関の意見や身体の機能などを把握し、生活活動の目標に添えるようにしている。自立支援を目標に地域への参加を含め、その人らしく暮らしていけるよう計画に必要な支援を盛り込んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活の様子とケアについての情報は個別にファイリングし情報共有と実践に活かせるようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急時の受診や送迎などご利用者様に合わせた柔軟な対応に取り組んでいます。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染症対策を取り入れながら外部の協力に少しずづ取り入れています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者様、ご家族様のなじみあるかかりつけ医がある場合は受診に対して支援しています。それ以外のご利用者様には協力医療機関を紹介してご利用者様・ご家族様の同意を得て医療を受けられるように支援しています。	地域の医療機関と協力し、健康を保つため小さな変化でも相談できるよう連携をとっている。専門診療科目は家族と協力し受診できる体制を整えている。受診結果は連絡を取り合い共有できるようにしている。医療機関と家族とのつなぎ役も務めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	少しでも変化が見られた時には、看護師に報告し必要な対応を行っています。また、訪問看護師に相談できる方は報告し、適切な受診を受けられるように支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は、病院と連絡を取り合いご家族様と病院側との連絡を密にし、情報交換をしています。早期退院や退院後の支援についてもご家族様・病院側・職員と協議しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時にもしもの時の対応をご家族様と確認を行っています。状態の変化が見られた時には段階的に利用者様・ご家族様と話し合い、急変時に迅速に対応できるよう医療機関との連携を密にしています。	重度化や終末期に、家族には納得いくように希望を伺い医療機関と連携し関わるようにしている。医師や看護師とは状態報告などを密に連携をとるようにしている。重度化や終末期に対応するため職員はカンファレンスや研修を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内において緊急連絡網で、報連相を速やかに行えるようにしています。また心肺蘇生や緊急時の対応について定期的に確認しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て避難訓練（火災、自然災害を想定）、避難経路の確認、消火器の使い方等訓練を定期的に行い、施設の消火設備についても点検を行っています。	消防署立会いの訓練後に、避難経路の確保の仕方や火災時避難の妨げにならないように備品の置き方について助言をもらっている。地域の警察や消防署と連絡は取り合い指導してもらい協力体制を気づいている。食料などの備蓄がある。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様の意思を尊重し、プライバシーを損ねないよう声掛けや見守りの対応する様に心がけています	プライバシーについて研修を通して、理解を深め、事業所でプライバシーの確保について工夫している。利用者を敬う気持ちを忘れないよう定期的に職員に伝え、丁寧な言葉かけをするようにしている。利用者の尊厳に配慮するための研修を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が強制するようなことなく、入浴の希望や衣類の選択等いろいろな場面でご利用者様の思いや希望が自己決定できるよう支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にしており、自室での読書やTV鑑賞といった希望があった場合には、状況に応じて柔軟に対応できるように努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の乱れを整えたり、見守り介助などで個人に能力に応じて支援を行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている。	一人ひとりの力を生かした役割を持ってもらい、職員はご利用者様と一緒に準備や片付けえお行っています。食べたいものや季節の物など献立に取り入れる事で食事の楽しみにおなる様に支援しています。	献立は利用者の好きなものや季節のものなど工夫を凝らし、おいしくできるように職員全体で行っている。利用者の身体状況に合わせて食べやすく調理し、自分のペースで食事ができるようにしている。職員も一緒に食事をし食欲を高めたりしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量が1日を通して一目でわかる様にご利用者様ごとに記録しています。また、ご利用者様の好みや苦手な物を把握して一人ひとり状態に合わせて代替品を提供するなどして支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ひとりでえできる方は見守りし、介助が必要な方については介助し個人の能力に応じて衛生保持の支援をしています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄パターンを把握しトイレ誘導を行い気持ちよく排泄できるように支援しています	トイレでの排泄が自立して行えることが目標とし、直接トイレに行くよりついでに寄っていくような感じにし、自然な生活の一部になるような配慮をしている。失敗した時には、その人の負担を最小限に収めるようにし、利用者の自尊心を守る様にしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立やお茶の時間に乳製品や食物繊維を多く含む食材を取り入れ、散歩や体操等、身体を動かす機会を作っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望や体調に合わせて入浴剤や入浴時間など楽しみながら入浴できるように努めています。	入浴剤など利用し気持ちよく入浴できるような工夫をし、入浴できない時には翌日に変えたり、清拭へと変更したりと清潔が保てるようにしている。できるだけ同性介護を心がけ、周りを気にせず入浴を楽しめるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入所以前の生活習慣や体調を把握し状況に応じて気持ちよく休息や静眠できるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示通り正しく服薬できるよう支援し、看護師を中心に状態の確認に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や洗濯、食事の準備など一人ひとりの能力や生活歴を生かせるように支援しています。また、好みの飲み物や散歩、ドライブなど好みに合わせて楽しめる支援をいています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブ、日用品の買い物などできる限り希望の沿った支援をしています。また、年間行事の中には小旅行を企画し出かけられる機会を作っています。	社会参加をすることを目標にし、地域の行事参加については利用者の希望を取り入れ、外出を全員で楽しむことを基本に計画している。感染予防対策し、家族にも協力を呼びかけ、できるだけ一緒に行事に参加できるようにしている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に金銭を預かることはしていませんが、希望に応じて対応しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話連絡については職員が支援してかけています。ご家族様の声を聴けるように支援しています。手紙のやり取りも自由にできるように支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの天窓にはブラインドがあり、光の調節できるようになっています。また、季節ごとに壁を彩り（写真や絵画）を一緒に作成し温かみのある空間づくりに努めています。	窓側で外を眺めたり、集まって趣味ごとができるような場所を好んだり、一人ひとりが希望の場所にいられるように自由に過ごして貰っている。移動のための動線を確保し、事業所内に案内を作り職員が寄り添えるケアができるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースにはTVやソファー、テーブルがあり好きな場所で過ごせるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。 （グループホームの場合）利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。	家具やベッド以外の寝具、生活用品等身近な物を自宅から持ってきていただき安心して過ごせるようにしています。	希望を聞きながら、自宅にいたときのような居室の環境づくりを心がけている。居室を間違わないよう、入口に表札を作りわかりやすく写真もつけている。利用者と職員が寄り添って一緒に掃除も行い、清潔に整理整頓されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室は分かりやすく案内を作り、それぞれの居室には表札と写真がドア付近の目立つところに付けています。混乱や失敗を指摘することなく説明や支援しています。		